「第19回 中国人受難者を追悼し平和と友好を祈念する集い」遺族・邵莉娜さん夫妻を迎えて開催しました

10 月 18 日、「中国人受難者を追悼し平和と友好を祈念する集い」を安芸太田町の中国電力安野発電所を望む小高い場所に立つ「安野 中国人受難之碑」前で開催しました。和解事業終了後の 2018 年から「継承する会」が主催するようになって、早いもので 9 回目となりました。

朝、広島市内は晴れていましたが、現地はあいにくの雨でした。激しい降りにはなりませんでしたが、やむことなく降り続きました。

「集い」は、岡原美知子さんの司会、屈帥帥さんの通訳で始まりました。「継承する会」世話人代表・足立修一さんの主催者挨拶のあと、安野中国



挨拶する邵莉娜さん

人受難者遺族の邵莉娜さん、安芸太田町の橋本博明町長、中国駐大阪総領事館の薛剣総領事、広島県教職員組合の頼信直枝委員長の挨拶（代読を含む）が続きました。

そして、竹内ふみのさんが二胡で「楊関三畳」を演奏され、献花へと進みました。小雨の中、参列者全員が二胡の音色に包まれながら献花を行ない、「集い」は終了しました。



献花する邵莉娜さん（左）と張振侖さん

中国天津市から参加された邵義誠さんの遺族・邵莉娜さんは、今回が初来日でした。父が強制連行され強制労働させられた地を初めて訪れて感慨深いものがあったと思われます。

参加者は、富山県高岡、東京、横浜、静岡県浜松など広島県外からの方も多く、全体では 62 人でした。

坪野フィールドワーク

「集い」の前に、坪野フィールドを行ないました。広島市内からマイクロバスで参加した方と自家用車で来られた方があり、参加者は 25 人になりました。傘を持っている人が半数ほどだったので、はじめ雨を避けてバスの中で説明を始めましたが、小降りになったので外に出て、安野発電所前と記念碑前と貯水槽の 3 カ所を案内しました。



記念碑の裏面に刻まれた碑文を読む

善福寺の追悼法要

「集い」終了後、善福寺で追悼法要を行ないました。

善福寺は、安野で死亡した中国人 5 人の遺骨を 1958 年に中国に送還されるまで預かり弔っていた歴史があるお寺ですが、2010 年代には和解事業で訪れた遺族たちが追悼法要に参列して心を慰められました。その後、和解事業が終わってからも毎年、法要を営んでいただいています。

戦後 81 年が過ぎ、日本で死亡した 29 人だけでなく 360 人全員が世を去りました。法要は苦難の歴史を思い起こす場にもなっています。

藤井慧心住職による「阿弥陀経」の朗々たる読経が流れる中、参加者全員が中国の長い線香をあげ焼香をしました。

法要のあと、邵莉娜さんと張振侖さんがお礼を述べ、お土産のお菓子を手渡して終了しました。



邵莉娜さんの挨拶

（日本語訳）

皆様、こんにちは。

私は中国天津から来ました。安野に強制連行された中国人・邵義誠の娘、邵莉娜です。

今日、私はこのよく知らないけれども熟知している場所に来て、とても重苦しい気持ちです。よく知らないというのは、私は初めて広島に来たからです。熟知しているというのは、父から広島で労働者にされた経歴をいつも聞いていたからです。1944 年に父は強制連行されて広島で労働者として体力を超える仕事をさせられ、食べる物も着る物も十分にないうえに監督からひどく殴られる非人間的な生活を送りました。

父がした仕事は、水の中に立って石を拾い上げる仕事でした。あるとき仕事中に足に石が当たってケガをし、そこから感染したために生涯足に痛みが残りました。

私が今日、この地に立てたことを継承する会の友人たちに感謝いたします。広島を訪れる機会を得て、父がかつて苦しい労働をさせられた場所に臨むことができて感慨無量です。戦争が両国人民にもたらした被害を考えると、とても複雑な気持ちになります。私は、両国人民は平和を求めていると信じています。この時期の経験はすでに歴史になりましたが、私たちはこれに正しく向き合わなければなりません。西松建設と和解をして、中国人被害者と遺族の願いをかなえることができました。長年にわたって日本の友人と中国の友人、学者たちがたゆまず頑張り続けたことに感謝いたします。

中日両国は一衣帯水の密接な関係にあります。中日友好が世代を継いで伝えられ、両国人民が平安で幸せで健康でありますように心から願っています。

安野中国人受難者遺族　邵 莉娜

2026 年 10 月 18 日